

令和 4 年度エゾシカの生息状況モニタリングの実施結果

1. ロードセンサス

(1) 調査目的

対策地域での捕獲前後におけるエゾシカの生息状況の変化等を把握するため。

(2) 調査方法

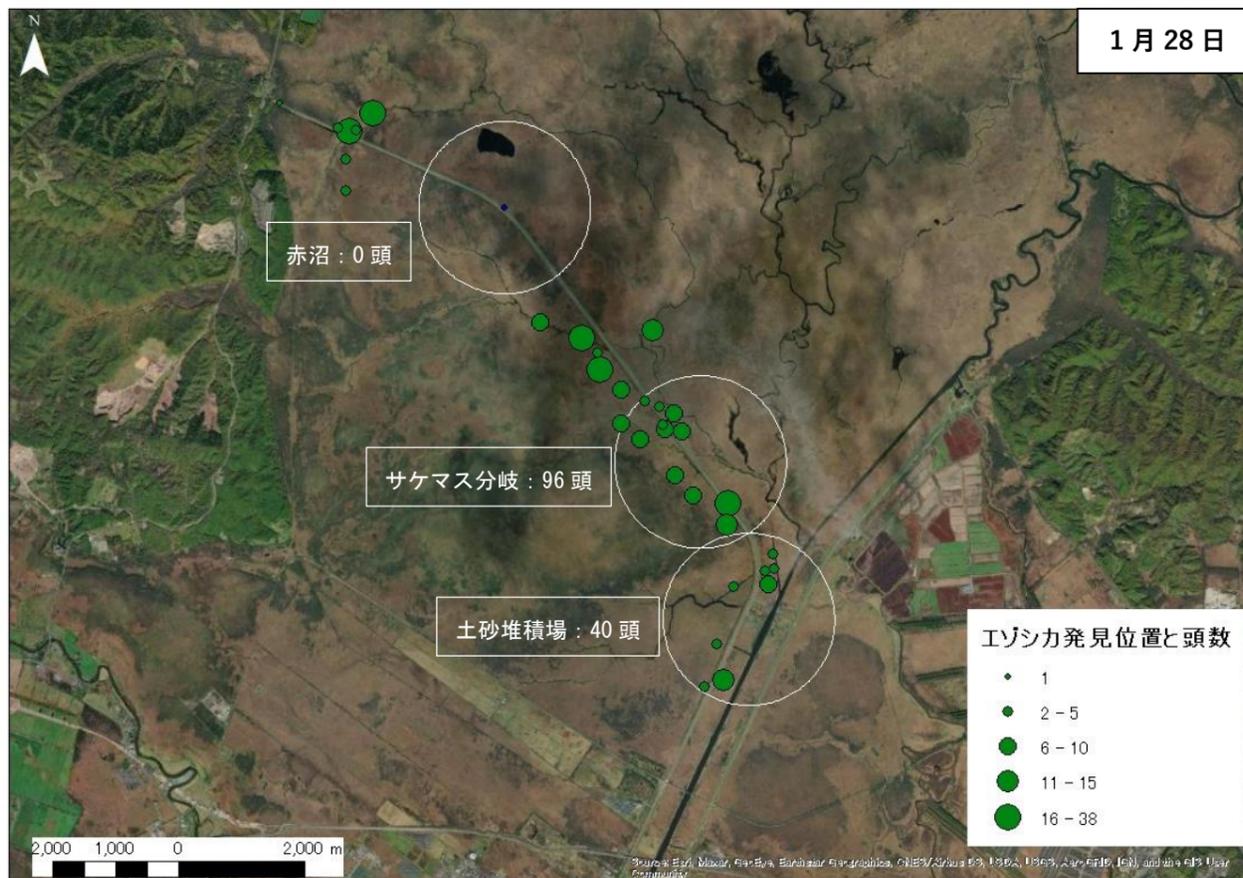
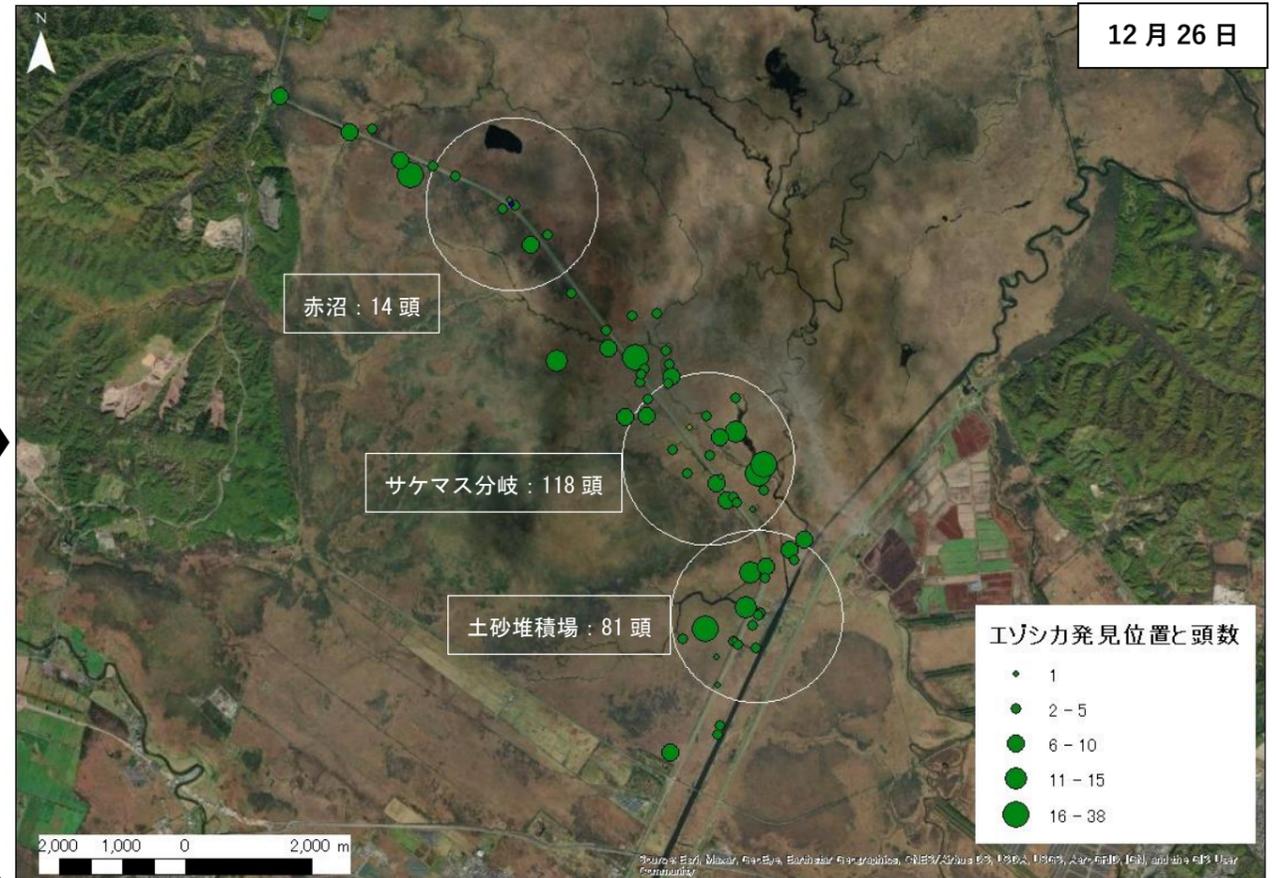
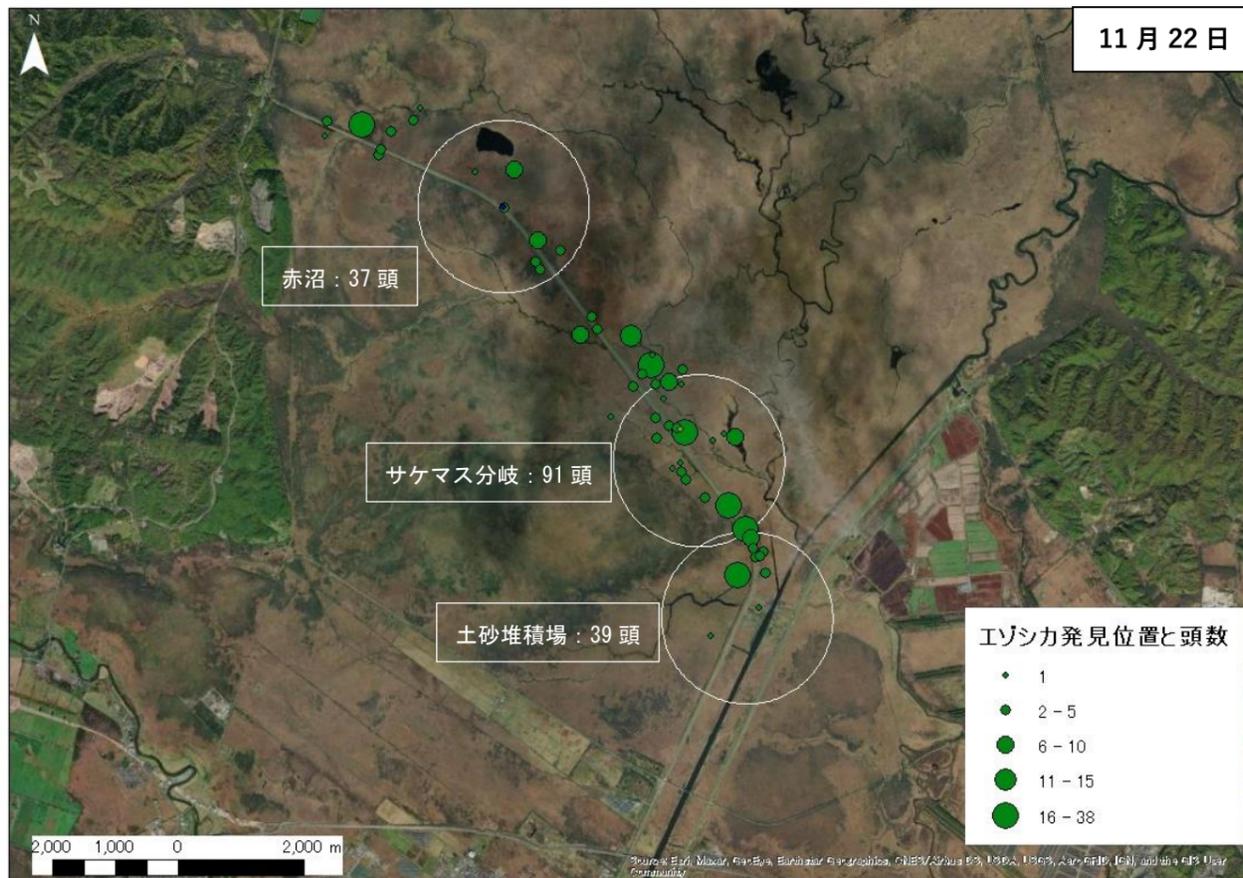
右岸堤防道路を車で低速走行し、目視（及び双眼鏡）で発見したエゾシカをカウントし、発見した位置と併せて記録した。日没後はスポットライトを使用し、照射範囲で発見したエゾシカをカウントした。年次比較を行うため、毎年同じ調査方法で月 1 回、朝（日の出 1 時間後）、昼（12 時）、夕方（日没前 1 時間）、夜（日没後 1 時間）に実施している。

(3) 調査結果

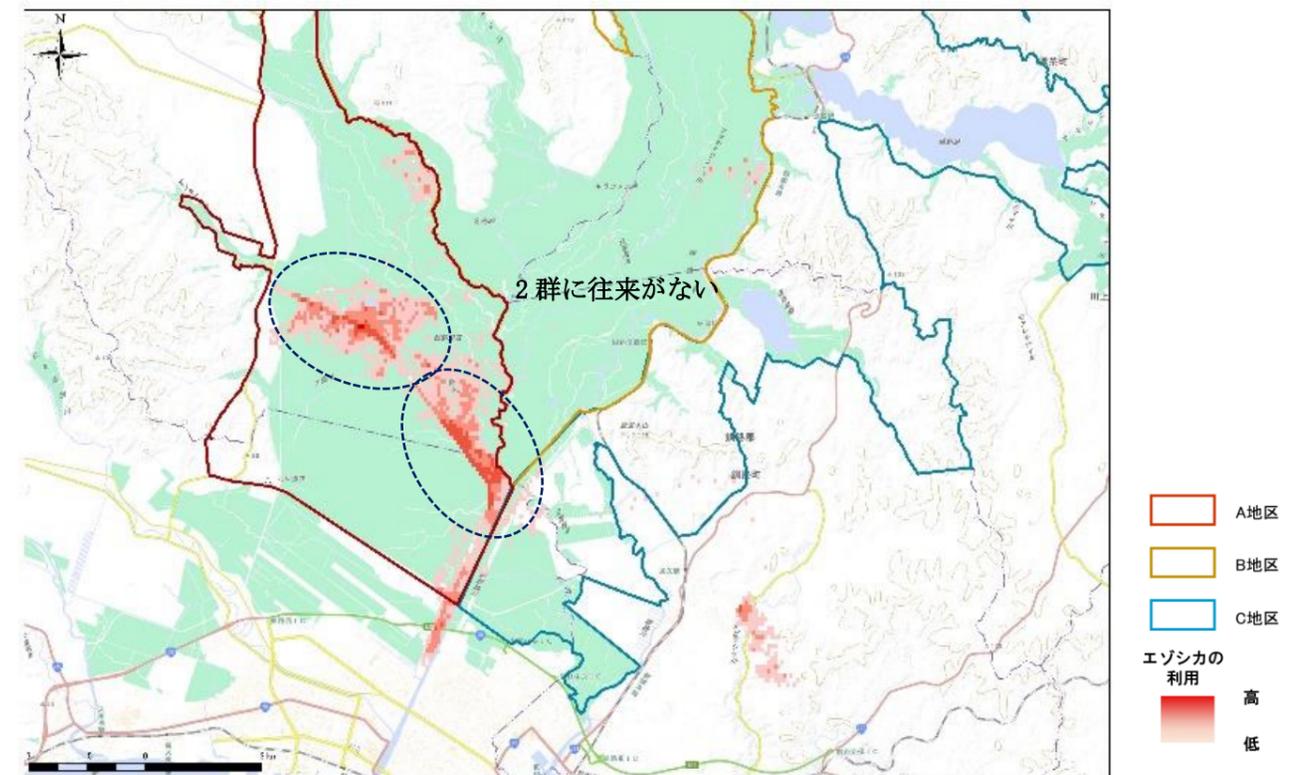
ロードセンサスの結果を捕獲効果の検証に活用するため、ArcGIS Field Maps を用いて、右岸堤防沿いで発見したエゾシカの位置と頭数を記録した。今後は、捕獲実施箇所を中心とした半径 1 km 圏内の観察頭数を集計し、捕獲前後で比較して捕獲効果の検証を図る。

令和 4 年度の各月（11 月～1 月）の最大観察頭数を記録した時間帯の結果を図 2～4 に示す。

捕獲実施箇所の中心とした半径 1 km 圏内におけるエゾシカ発見位置と頭数



<参考>A地区のエゾシカの生息地利用 (右岸堤防のGPS首輪調査: 15個体) 10~12月(秋)



*GPS位置情報を10mメッシュで解析して利用度合いの高い地域を抽出

<参考>

平成 29 年度から令和 4 年度までの各月の最大観察頭数の推移を図 1 に示す。

令和 4 年度の最大観察頭数は、11 月は令和 2・3 年より少ないが、12 月は過去最大頭数であった。

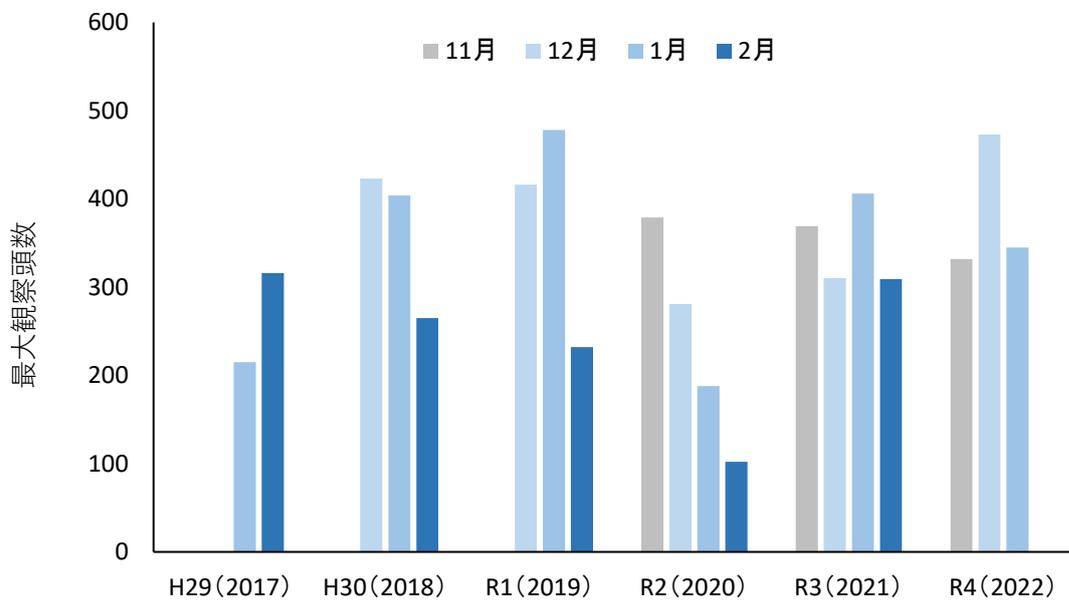


図 1 ロードセンサスにおける最大観察頭数の推移

2. 細岡展望台カウント調査

本調査は、釧路湿原自然保護官事務所でパークボランティアの活動の一環として、平成18年から継続的に実施している。

(1) 調査目的

ロードセンサス等でモニタリングできない範囲のエゾシカの生息状況を把握するため。

(2) 調査方法

2～4名のパークボランティアとアクティブレンジャーによって、12月～4月に月3回の頻度で実施されている。1本の特徴的な樹木を標準木と定め、展望台からの可視範囲を標準木の南北2つに分けて、それぞれの範囲を調査員2名程度でカウントしている。

南北に分けると効率的にカウントできるが、展望台からの距離が遠い場所ほど、天候やエゾシカの体勢（反芻や座っている状態）などによってカウント数に個人差が出て、調査精度のばらつきが大きくなるという課題がある。



写真1 12月13日のパークボランティアによる調査の様子

(3) 調査方法の改善（案）

調査結果を活用するには、現時点で課題となっている経年比較のための調査精度のばらつきを抑える必要がある。そのため、パークボランティアの調査及び集計方法を見直し、調査マニュアルを作成予定である。

これまでの調査手法を踏襲しながら、調査データの精度向上を目指すために、細岡川によって東西にさらに区分し、区分ごとに目視でエゾシカをカウントする方法を考案した。この改善案を基に、パークボランティア等と相談した上で調査方法を確定し、今年度中に調査マニュアルを完成させる予定。

1) カウント範囲の区分

- ・展望台からの可視範囲を標準木の南北、細岡川より東西で4つに区分する。

2) 調査データの経年比較

- ・今後の経年比較には、細岡川より東の区分（図3 ③、④）の結果を用いる。
- ・展望台からの距離が遠く調査精度のばらつきが大きくなりやすいことから、細岡川より西の区分（図3 ①、②）は参考記録とする。



図3 新たな調査範囲の4区分（案）